

ESGの推進を軸に3つのコア技術を深化し、企業価値のさらなる向上を目指します



代表取締役社長 **高橋弘二**

新型コロナウイルスの感染拡大により、感染された方々へお見舞いを申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々に哀悼の意を捧げます。また、感染拡大防止や治療、ワクチン接種などに尽力されている医療・保健機関の皆様、ライフラインや日常生活維持など社会を支えてくださる企業・団体の皆様に心から感謝申し上げます。

■ 長引くコロナ禍からの脱却とESGの推進

2020年初頭から始まった新型コロナウイルスの感染拡大は、当初の大方の予測を超えて長引き、現在もなお世界経済に深刻な影響を与えています。

当社グループの事業もコロナ禍の影響を免れることはできず、かつて経験したことのない需要低迷に喘ぎましたが、期を通じて大型ディスプレイ用色材及びコーティング剤関連が堅調に推移したこと、期央から車両向け製品が回復したこと、また、大幅な経費削減を継続して行ったことから2021年3

月期決算は前年並みの収益を上げることができました。

こうした中、当社グループでは、コロナ禍を事業や組織のあり方を見直す機会と捉え、従来から徹底してきたコンプライアンスやCSRを一歩進め、自ら進んで社会や環境等に貢献し、サステナブル社会を担う企業としてその価値を高めるべく、「ESGの推進」を柱とした経営方針を定め、従業員が一丸となってこれに取り組んでいるところです。

■ 中期経営計画の公表にあたって

また今夏、当社グループは、中期経営計画を公表し、長期的な展望とともに今後3年間に私たちが進むべき方向性をお示ししました。計画の策定にあたり、内部、外部環境の課題を把握し、改めて私たちの強みとは何かを役員・従業員と対話しながら、具体的かつ現実的なビジョンを取りまとめてまいりました。当社グループが今後、社会や環境等の課題にどのような姿勢で対峙し、貢献していくべきかを経営者として語るだけでなく、役員のみならず多くの従業員とも共有する好機となりました。

■ 技術力と現場力の大日精化

それでは、私たちが大切にしていきたい強みとは何でしょうか？

そのひとつは、創業以来90年の歴史の中で築いてきた「技術力」です。私たちには、有機無機合成・顔料処理技術、分散加工技術、樹脂合成技術という「3つのコア技術」があります。一方、事業の持続性と成長性を実現するには、これらの技術を活かすべき新たな用途や事業を常に探索し、深化さ

せていく必要があります。当社グループでは従来から取り組んできた環境への調和をさらに進め、オープン・イノベーションなどの手法を取り入れながら、ESGやSDGsへの貢献をターゲットとして、技術主導の体制を構築し、企業価値と収益性の向上に努めます。

そして、私たちのもう一つの強みは「現場力」です。私たちは、色彩と機能性素材という製品体系から、国内外のさまざまな業界、さまざまなお客様とお取引させていただいております。その中で最前線の営業がお客様のニーズを的確に把握し、研究開発力と技術力でソリューションを提示し、生産現場が迅速に対応するという、三位一体の経営サイクルを築いてまいりました。現場を支える従業員一人ひとりがお客様のために、そして社会や環境への貢献のために、高い意欲を持って、現場力のさらなる向上と結束力の強化に努めます。

■ 不確実な時代に向けて

今、国内ではワクチン接種が着実に進み、長く続いたコロナ禍から多くの人々が解放される日が近づいています。一方、ポストコロナの時代に到来するニューノーマルといわれる新しい生活様式への移行やDXの一層の進展など、社会は大きく変化し、先行きが見えにくい不確実な時代へと突入することも想定しなければなりません。

このような新しい時代、社会構造の中にあっても、ステークホルダーの皆様から信頼され、長くお付き合いいただける企業グループとなるべく、私たち大日精化グループは、さまざまな課題解決と社会に役立つ価値創造に向けて、自らの改革とガバナンスの強化に努めてまいります。

長期ビジョン、基本戦略

中期経営計画の公表にあたり、おおむね10年後を目安とした2つのミッションと4つの基本戦略を策定しました。

当社グループの強みである技術力を生かしニッチマーケットを通じた社会貢献を続けるとともに、サステナブル社会の実現を新たな価値創造の機会と位置づけ、企業価値の向上を目指します。

また、「技術主導」「ESG重視」「海外事業の拡大」を基本戦略の3つの柱に据え、資本効率を重視した経営により、経営指標としてお示した利益目標の実現を目指してまいります。

「10年後のありたい姿」

ミッション

✓ 技術力を生かしニッチマーケットで社会に貢献し続ける

✓ サステナブル社会の実現に向けた課題解決と新たな価値創造に取り組む

基本戦略

✓ 資本効率を重視した経営

✓ 技術主導による競争優位性の確保

✓ サステナブル社会の実現に向けたESG重視の経営推進

✓ 事業基盤の強化のための海外事業の拡大(海外売上高向上)

長期ビジョン、基本戦略——ロードマップ

長期ビジョンの実現に向けたロードマップをおおむね3つのフェーズに分けて策定しました。

今後の3年間は成長に向けた「種まき」の期間と位置づけ、コロナ禍からの確実な回復と既存事業、技術、海外開拓の基礎を整えてまいります。

また、5年後までに「成長」の基本となる利益体制の構築や新規事業の実績化を図るとともに海外における市場戦略の整備を進めます。

こうした、種まきと成長を通して、10年後にはそれらの「収穫」を行い、資本効率や収益力の向上、国内海外比率の適正化等により、エクセレントカンパニーとして、ありたい企業像の実現を目指します。

成長シナリオと10年後の位置づけ



3年後

- コロナ禍からの回復
- 既存事業の着実な推進
- 技術開発強化 (ESGを中心とした新規事業)
- 海外市場開拓 (北米、EU、インド)

5年後

- 資本効率の高い利益体制構築
- 新規事業の実績化加速
- 海外市場戦略 (資本提携、M&A)

10年後

- ✓ 資本効率の向上 (ROE、ROA目標の達成)
- ✓ 収益力の向上
- ✓ エクセレントカンパニーの実現
- ✓ 国内海外比率の適正化

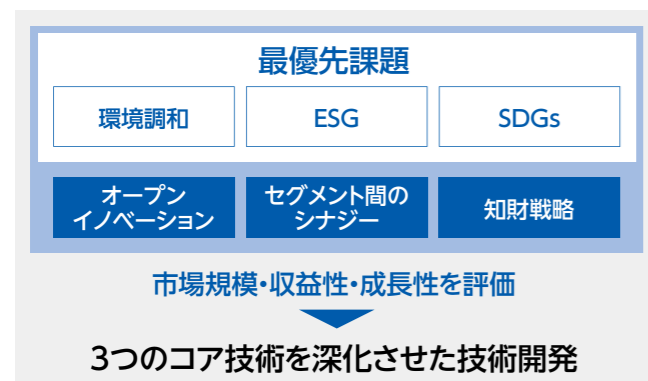
経営方針

当社グループは、環境の変化に的確に対応し、サステナブル社会の実現に貢献する製品・サービスを提供する技術オリエンテッドのソリューションカンパニーとして、次の3つの施策を定め、持続的な成長と資本コストを勘案した利益目標の達成を通して、さらなる企業価値の創出を目指します。

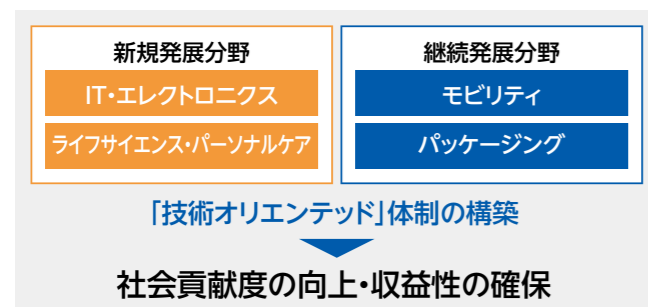
持続的成長と中長期的な 企業価値の創出のための 3つの施策	1. 技術主導による競争優位性確保
	2. ESGを重視した経営による企業価値向上に向けた改革の推進
	3. 海外事業拡大に向けた事業基盤の強化

1. 技術主導による競争優位性確保

当社グループでは、技術マネジメント手法を用いて保有する技術を再評価し、社会的なニーズであるESGへの貢献を最優先課題として、オープンイノベーション、セグメント間のシナジー、知財戦略などを組み合わせ、市場規模・収益性・成長性を評価し、すでに保有している3つのコア技術を深化させた技術開発に取り組んでいます。

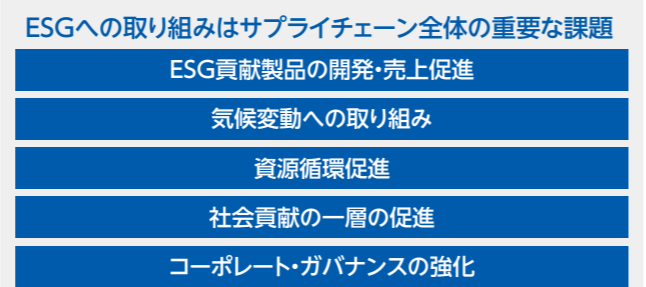


IT・エレクトロニクスとライフサイエンス・パーソナルケアの二つを新規発展分野、モビリティ、パッケージングの二つを継続発展分野として開発対象の中心に据え、資金と人材を積極的に投入することを行い、技術主導による競争優位性の確保を目的とした「技術オリエンテッド」体制の構築を目指します。



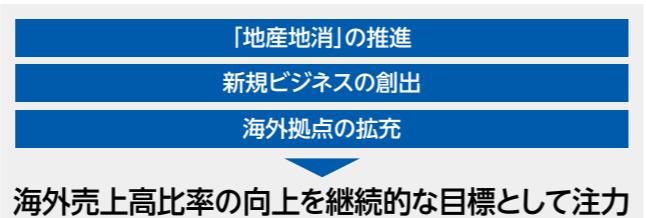
2. ESGを重視した経営による企業価値向上に向けた改革の推進

ESGへの取り組みは、当社グループを取り巻くサプライチェーン全体の重要な課題として認識し、原材料調達段階から当社製品を使用した製品が廃棄される段階までを含めたライフサイクル全体において、ESG貢献製品の開発・売上促進、気候変動への取り組み、資源循環促進、ステークホルダーを通じた社会貢献の一層の促進、及びコーポレート・ガバナンスの強化への一層の取り組みを実施します。



3. 海外事業拡大に向けた事業基盤の強化

当社グループの収益、成長の源泉は、国内・海外双方に存在し、GDP高伸長国での事業展開をバランスよく事業育成していく必要があるとの認識のもとに「地産地消」の推進を続けます。また、成長市場をターゲットに新たな製品の現地生産による市場参入を検討するとともに、これらを目途とした海外拠点の拡充を図ります。

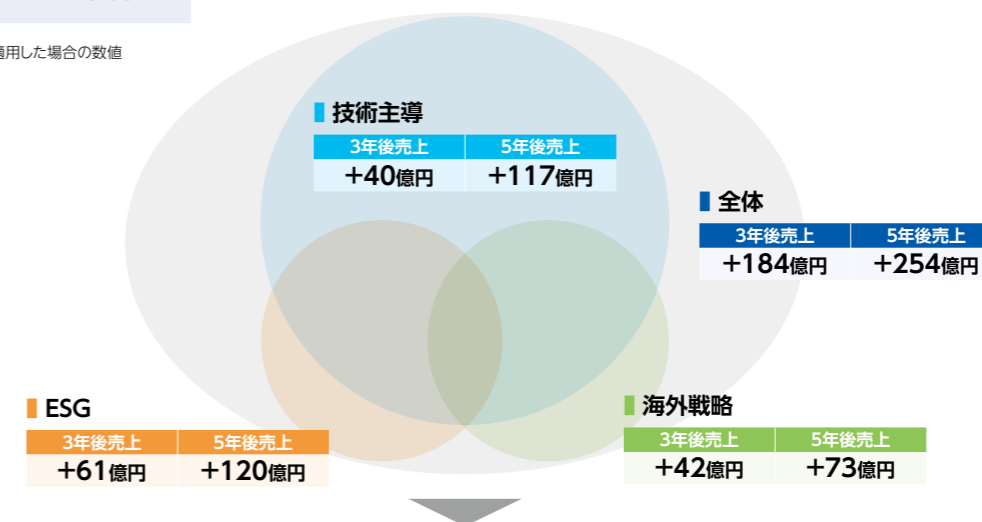


経営戦略

長期ビジョン、基本戦略——戦略の方向性

2020年 実績		3年後(2023年)数値目標		5年後(2025年)数値目標	
売上	営業利益	売上	営業利益	売上	営業利益
1,066億円 [*] 1,384億円	49億円	1,250億円	87億円	1,320億円	120億円

*収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値



ROE 9%以上、ROA 5%以上を産み出す利益体制の構築

当社グループでは、「技術主導」「ESG重視」「海外事業の拡大」を基本戦略の3つの柱に据え、資本効率を重視した経営により、持続的な成長を目指してまいります。

海外展開については、GDPの伸長が期待される地域において、地産地消を目標に拠点整備と顧客開拓を進めます。

設備投資については、総額の約6割を戦略投資として製品開発や拠点整備などに充てるほか、サステナブル社会の実現に向けた積極的な配分を行います。

配当については、業績と連動し、安定的かつ継続的な株主還元を努めてまいります。

海外展開の方針

**GDP高伸長国でのバランスのとれた事業展開を実行
～地産地消の推進と海外拠点の拡充～**

設備投資の方向性

- ✓ 総額150億円の約6割を戦略投資として、戦略製品や戦略拠点の整備に投入
- ✓ 約4割を通常投資として、既存設備の維持更新に活用
- ✓ 戦略投資と通常投資の総額のうち約4割をサステナブル関連の整備開発に投入

配当の方針

- ✓ 業績に連動した安定的・継続的な株主還元を着実に実施
- ✓ 財務体質の健全性を維持しながら、成長に向けての投資及び環境投資へ優先的に配分
- ✓ 配当性向は2～3割程度を計画